

大附中新聞

7月3日発行
第9号

皆さん、体育祭お疲れ様でした！皆で楽しむことのできた最高の体育祭となったのではないでしょう。附中新聞第9号では各競技に出場した皆さんの感想を掲載します。

LONGきやたびーず

私たち一年生にとっては初めての体育祭。少し緊張しましたが、一人ひとりが全力で取り組むことで良い体育祭にすることができました。中学生が最初に出場した競技はLONGきやたびーずでした。この競技はクラス全員で協力することが勝利のカギとなります。本番で一位になれるように作戦を考えたり、一人ひとりが声を出すなど

の工夫をしました。私たちのクラスは残念ながら本番では三位という結果になりましたが、良い思い出になったと思います。

(三年)

JUMPING☆FUZOKU

中学体育祭競技の目玉とも言えるJUMPING☆FUZOKU。この競技はクラス全員が一本の縄を一齐に跳ぶ、団結力の試される競技です。そのため、放課後にはたくさんさんのクラスがグラウンドで一斉懸命練習する光景が見られました。本番、満足いく結果が出たクラス、そうでないクラスと色々あったと思いますが、どのクラスも団結力が深まったことには変わりはないと思います。練習中、や

つと初めて全員で跳ぶことができたときの嬉しさ、最高記録が出たときの感動はきつと忘れられないものになっていくでしょう。これからこの競技で培った団結力を色々な場面で活かしていきたいと思えました。

(三年)

騎馬戦

皆さん、何か思い出になっている競技はありますか。僕からは騎馬戦を通しての感想を言いたいと思います。単純に一言で言うとはツとしました。なぜならこれはどの競技においても言えることですが、大きな怪我をした人が出なかったからです。騎馬戦という競技は毎年かなり激しくなります。しかし、競技で熱くなりつつ怪我をしないようにするのは難し

いことです。今年度はこのことも考慮し、安全に競技に取り組むことができたと思います。

(二年)

米騒動

赤、白それぞれ団長の「行くぞー！」という声かけに「おー！」と声を上げて出陣し、戦いが始まるほどのチームも熱戦となり、迫力ある俵の奪い合いとなりました。俵を押したり引いたり戦い方は人それぞれでしたが、かけ声に合わせながら俵を引くなど工夫をしているチームも多く見られました。結果は白の勝利に終わりましたが、フィールド内ではどちらが勝ってもおかしくないくらい熾烈な戦いが繰り広げられました。

(三年)

でかばんリレー

でかばんリレーでは、二人一組でバトンの代わりとなるでかばんを履き、クラス対抗で競いました。ただ足の速さを競うのではなく、でかばんを次の走者に渡す速さも大切なので、チームワークの良さが試されました。また、でかばんリレーは走者が身に付けるアイテムが魅力的です。今年度は昨年度と違い、アイテムが全て身に付けることができるものでした。アイテムはバラエティーに富んでいて、対抗意識を持ちながらも競技を楽しむことができたと思います。最後の最後まで順位が分からなかったので、応援していた人も楽しむことができましたのではないのでしょうか。

(二年)

リレー

各クラスの連携が試されるリレー。練習期間が短い中で、私たちのチームはバトンパスの精度を上げ、コーナートップ制などにも対応した練習をしました。皆それぞれがチームのために頑張っていました。体育祭本番、競技はまず一年生から始まりました。一年生とは思えない力強い走りを見せてくれました。二年生のリレーではスタートからゴールまで一瞬も目が離せないほどドキドキしました。そして三年生は最高学年としての絆と迫力のある走りを見せてくれました。皆さんも一生懸命走る選手を見て「頑張れ！」と応援したのではないかと思います。リレーは選手も応援する人も楽しめる最高の競技だと思います。

(二年)

中高合同綱引き

中高合同綱引きは一回戦、二回戦と行われ、どちらも赤が勝ちました。相手よりも綱を強く引かなければ勝つことができない競技なので赤も白も勝利を目指し、どのようにすれば綱を強く引くことができるのか、予行や練習での経験を活かし、作戦を練っていました。白は残念ながら二回戦とも負けてしまいました。悔しい、残念だと思ふ気持ちだけではなく、楽しかったという気持ちもあつたと思います。赤、白ともにこの競技を通して一体感が生まれたと思います。

(二年)

中高合同障害物競走

この競技はかなり中高合同を意識することができた競技ではないかと思

います。僕自身も実際に競技に出場し、中高合同を感じることはできました。これまで関わったことのない先輩と関わり、心を一つにして勝利をつかみ取るうとするこの競技は、まさしく僕たちの学校の体育祭らしいものと言えるのではないのでしょうか。個人的にはバトンパス手前で行った縄とびが好きでした。バトンパス直前ということもあり、緊張感がありました。心を一にするこの大切さを実感できる競技ものでもありません。体育祭が終わってから話になりますが、先日この競技でペアだった高校生の先輩が声をかけて下さいました。体育祭という行事が中高を越えて新たな結びつきを作ったのだと改めて感じました。

(三年)

最後の決戦

体育祭の結果を左右する最後の決戦。一度のバトンパス練習のみで本番を向かえ、緊張で一杯だったせい、競技中の気持ちをなかなか思い出せません。しかし、たくさんの方の応援のおかげで精一杯走ることができたことは今でも忘れられません。結果こそ優勝を勝ち取ることはできませんでしたが、皆さんの応援のおかげで悔いなく競技を楽しむことができました。嬉しかったです。これからこの経験を忘れず、団結することの大切さを心に留め、学校行事などに臨みたいと思います。

(三年)

執行部から！

体育祭局長の
皆さんに体育祭を終えての

感想や皆さんへのコメントを伺いました。

今年度の体育祭は異例の六月開催となり、新学期開始直後から体育祭当日に至るまで毎日が本場にハードなものでした。ですが、先生や生徒の皆さんに支えられ、無事に体育祭を成功させることができました。今では、その忙しかった準備期間も、大切な思い出です。

皆さんは、今回の体育祭を通して、自分自身の新たな一歩を「踏み出す」とはできたでしょうか。体育祭で踏み出した一歩から、これからの学校生活や行事などを通して、どんな前へ進み、成長していったらと思います。

最後に、今年度の体育祭に関わった全ての人に心から感謝しています。

(三年)